



隠された歴史の謎を解き明かせ！

# 南あわじの古代の秘密

## Vd. 3

南あわじの歴史を研究しつづける埋蔵文化財調査事務所。ここには、市内で発見された貴重な文化財が大量に保管されています。わたしたちが暮らしている地面の下には、数百年前・数千年前のわたしたちのご先祖様の生活の跡があり、その中には松帆銅鐸のように世界からアツイ視線を集めているスゴイものが出てくることも。今回はそれぞれの文化財の謎を事務所の皆さんと一緒に紐解いていきます。

## 文化財の保管現場に潜入！ プロならではの収納術！

事務所内にズラリと並ぶ数千ものカラフルなコンテナ。ここには今まで発掘してきた数多くの文化財が保管されています。都市部に比べて農地が多く、歴史的にも重要な場所である南あわじ。松帆銅鐸をはじめ、先進的な研究に取り組んでいる埋蔵文化財の現場の皆さんの、いろんな知恵が詰まった「プロの収納術」を探ります！



## 埋蔵文化財調査事務所 定松さんが あっと驚く！こっそり教える！ 南あわじ市の歴史トリビア<sup>3</sup>



---勾玉って、何の形を表しているの？  
定松) 勾玉は胎児(お腹の中の子ども)の形といわれたり、陰と陽といわれたり、この形になった理由は今でも謎なんです。でも、すでに縄文時代から存在していて、巫女や呪術師などの特殊な人だけが持っていたようですね。

---日本のどこでも同じ形なの？  
定松) そうなんです！とても不思議なことに、勾玉の使われ方は全国でほぼ同じ。石はヒスイ・メノウ・ヘキギョク。サイズもね、小さいものだと7ミリのものまで発見されているんです。

---どんな神様を信じていたの？  
定松) もとは自然に対する信仰=神様だったのだと思います。海に近いムラだったら、海の神様。暴れ川があれば川の神様。住んでいる地域ごとの災害が「恐怖の対象」=神様となって、そこで暮らす人たちが生きてくための信仰の対象にしていたんでしょうね。  
縄文時代は人口が少なかったのですが、稲作時代になると増加して共同体と



してムラを作る。いつからか、他のムラと一緒にお祭りをするようになり、今まで違った文化が混ざり、みんなの共通した祈り方や勾玉の使い方が生まれるんです。2000年前も今も、文化の広がり方って、おもしろいですよね！

**定松佳重さん**  
南あわじ市教育委員会 埋蔵文化財調査事務所に所属。2015年の松帆銅鐸の発見より前から、調査の最前線南あわじ市の歴史を調査に臨んでいる。市島内・島外でも数多くの講演を担当。

### 01



黄色と灰色の謎の色分け

黄色と灰色

色で違いを生み出す

事務所にはまだ研究されていない土器や勾玉などの文化財がいっぱい。まず整理する際には、「重要=灰色」「それ以外=黄色」とコンテナを分け、作業の効率を高めているんですって!!

### 02



大量にならぶ青色のファイル

大サイズのファイル

発掘時にすべてを記録!?

長期間に及ぶ発掘で見つかる文化財の数は、驚くほどたくさん! その一つ一つの位置・深さ・大きさなどの情報は細やかに記録され、すべて保管しています!

### 03



数字と英語の謎の記号

数字と英語

英数字で記録する

発掘した年・場所が分かる魔法のカード。例えば、「H-INI-2」の最初の英字は、M:旧緑町、S:旧西淡町、H:旧三原町、N:旧南淡町。続いて、I:市、N:新、I:字名、2:2次調査となっているんです。

## 南あわじ市内で歴史文化を楽しめるスポット<sup>3</sup>

島全体がお墓  
海人の長が眠る!?

沖ノ島古墳群と棒状石製品



鳴門海峡をのぞむ小島全域に広がる古墳群。自然石を積み上げた17基もの小さな石室が築かれ、漁具が中心の副葬品が見つかったことから、島全体が海人(あま)の眠る墓と考えられています。

住所/南あわじ市阿那賀(伊弉漁港沖) TEL/0799-42-3849 問い合わせ/南あわじ市埋蔵文化財調査事務所

あの黒田官兵衛もいた  
豊臣秀吉ゆかりの城跡

志知城跡



鎌倉時代初期に菅和泉守道忠が築城したとされる志知(しち)城。天正9(1581)年には羽柴(豊臣)秀吉による淡路征伐があり、あの有名な黒田官兵衛が在城し、長宗我部氏と戦ったとされています。

住所/南あわじ市志知松本 料金/無料 ※駐車場は大日川側の伊勢神社境内。志知城は私有地のため、マナーは守ってください

180年、淡路を守ってきた  
細川家の館跡

養宜館跡



細川氏が暦応3(1340)年に淡路の南朝連合軍を破り、養宜館(やぎやかた)に入ったとされています。細川氏は7代、約180年にわたり淡路を支配しました。土塁の保存状態の良さは兵庫県内でも随一。

住所/南あわじ市八木養宜中 料金/無料 ※駐車場は館跡の中八木集会所

「松帆銅鐸」は、秋に玉青館にて展示される予定です!

ホームページ <https://www.city.minamiawaji.hyogo.jp/site/matsuhodotaku/>  
facebook [https://www.facebook.com/matsuhodotaku/?ref=br\\_rs](https://www.facebook.com/matsuhodotaku/?ref=br_rs)



# スゴイ!が盛りだくさん 市内のおもしろ発見

## BEST 3

南あわじの歴史からは古代・中世と、いろいろな貴重なものが発見されます。今回は、専門家が選ぶ珍しい発見を3つご紹介!

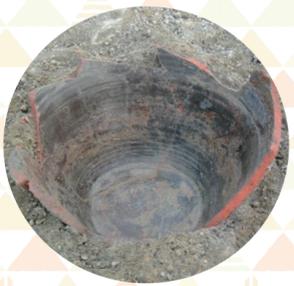
### 1 国分寺にある本尊

淡路国分寺に今でも残る本尊・釈迦如来坐像。これは南北朝時代の作ですが、国分寺本来の本尊である釈迦を現在も本尊とするのは淡路だけです。お釈迦様の周りには十六羅漢像があり、そのうちの1人が林修先生に似ていると話題に。ちなみに、淡路市草香の智禅寺にはマツコデラックスにそっくりの弁財天がおられるそうです。  
※八木国分。拝観料300円。要予約。



### 2 大きな甕の破片

中島遺跡から出土したのは、明治から大正時代の大きな甕(かめ)の破片。調べてみると鳴門の大谷焼のもので、しかも、便槽(べんそう)…つまりトイレでした。畑の肥料としてうちを使っていたようですが、当時のトイレは一般的には木の桶(おけ)が多いんですね。お金持ちだったのか、凝り性だったのか。  
※出土地:北阿万伊賀野



### 3 中世のお墓

1433年のお金が入ったお墓が里原田遺跡で発見されたんです。記録写真を撮影するために掃除すると、なんと、人の頭蓋骨だったことが発見。日本の土ってね、酸性なので骨は残りづらいもの。だから、土器と勘違いしました。しかも、青銅製の小刀も持っていたのも興味深いですね。  
※出土地:湊里



# 玉青館をリニューアル!松帆銅鐸を迎える準備、進行中!

2020年秋以降に南あわじ市に帰ってくる松帆銅鐸。100年に1度とも言われる大発見の素晴らしさを、もっと多くの市民の皆さまに伝えたいと、ハイスペックの展示ケース、話題のVR体験、オリジナルRPGまで、玉青館を大リニューアル。おかえり!松帆銅鐸!もう、待ちきれない!!

## 2020年の秋に、 玉青館に帰ってくる!

2015年の大発見から約5年に渡り、奈良文化財研究所でさまざまな角度から研究されていた松帆銅鐸。今までの教科書の内容を変えるような新事実とともに、「南あわじ市滝川記念美術館 玉青館」に2020年秋以降に帰ってきます。新たな展示に際して玉青館の2F展示室を松帆銅鐸の展示用にリニューアル。松帆銅鐸とは何か、どういう目的に使われていたかなどの解説グッズはもちろん、注目すべきなのは、松帆銅鐸の展示ケースです。この魅力を後世にまで残すため、「エアタイト仕様」という外部からの空気を遮断し、酸化を防ぐ、重要文化財を展示できる特殊なケースを設置することになりました。



## さまざまな切り口で 松帆銅鐸を楽しむ!

未来にも美しい状態で保たれるように、奈良文化財研究所ではリニューアルオープンに向けて保存処理の真っただ中。玉青館での展示も、処理が終わったものから順次、登場することになっています。また、2Fの展示フロアのエントランスには、松帆銅鐸の歴史背景を知るために、「国生み神話」を解説しています。7・12年に書かれた日本で初めての歴史書『古事記』に書かれた日本の始まりの物語。伊弉諾尊と伊弉冉尊の2人の神が日本で初めて生み成した島こそが、淡路島でした。1Fに設置しているVRコーナーでは、約2300年前の世界を目の前で体験していただけますので、是非、チャレンジ!



### 南あわじをもっと楽しむ

#### RPG「はじまりの島」 立て看板を設置

淡路島日本遺産のオリジナルRPGゲームの8人のキャラクターの1人、「カグツチ」の立て看板を設置。ゲーム内クーポンを提示すると入館料10%オフになります。



#### 淡路瓦の小物が入る ガチャガチャ設置

南あわじ市名産の「淡路瓦」の小物が入ったガチャガチャを設置。玉青館は他のところにあるガチャガチャより、松帆銅鐸キーホルダーが入っている率が高いそうです。



### 話題のVR体験で弥生時代にタイムトリップ

VRは「バーチャル・リアリティ」のこと。特殊なゴーグルを付けると目の前に約2300年前の景色が広がり、装着者があたかも当時の風景にタイムトリップしたかのような体験が可能になります。また、「日本で一番最初に生まれた淡路島、弥生時代、海の民、松帆銅鐸。そして、弥生時代の暮らし」と、当時、淡路島で生活していた人たちがどんな日常を過ごしていたかをゴーグルを通して間近で見ることができます。案内役として登場するのは、松帆銅鐸のオリジナルキャラ「ザ・ドータクズ」のメンバー。愛らしさから幅広い世代に大人気です。入館料別途300円必要。

